

栄町第6次総合計画基本構想(案)に対する意見募集 (パブリックコメント)の結果について

令和7年12月25日～令和8年1月20日迄の間、栄町第6次総合計画基本構想(案)の意見募集を行ったところ、別添のとおり意見提出がありました。誠に有難うございました。

お寄せいただいた御意見を整理し、町の考え方をまとめましたので公表します。

意見募集期間	令和7年12月25日(木)～令和8年1月20日(火)		
意見提出者数	4名		
意見提出件数	13件		
意見の整理	◎	基本構想(案)へ反映したもの	1件
	○	既に基本構想(案)へ記載済のもの	1件
	◇	前期基本計画(案)へ反映していくもの	4件
	□	基本構想(案)へは反映できないが意見として伺ったもの	7件

栄町第6次総合計画基本構想（案）に対する御意見と町の対応

No.	御意見等	基本構想概要箇所	町の方針	区分
1	栄町を知らない方をかなり多く見かけます。 ※印西、成田市在住者でもご存知ない方が多いです。私の勤務先も栄町ですが、会社案内で場所を伝えても通じない方多数。知っているがどんな町かわからない、足を運んだ事がない方も多数。町の魅力度を上げる方針と一緒に、知名度増加戦略を組み込んだ方がよいと考えます。茨城県境町の事例、理念など	第2編基本構想 第8章基本目標6	当町を知っていただくため、町公式LINE、インスタグラム、X、フェイスブック等のSNSを活用し、町のイベントや風景、地域など町の魅力を多くの方に伝えることができるよう情報の発信を強化しているところです。 いただいた、ご意見を踏まえ、基本目標6活力と賑わいに満ちたまちをつくるにおいて、自然、既存の文化財を活用した地域資源を発掘し、新たな観光スポットを創出するとしているため、「効果的な情報発信と魅力づくりに取り組む」を追記しました。	◎
2	【広域連携】 近隣の印西市、成田市と同等になろうと思っても無理です、茨城県の龍ヶ崎市、牛久市、稲敷市などとも繋がりを考える事も必要だと思う 安心安全な町造りを期待しています。	第2編基本構想 第7章まちづくりの横断的な視点	ご意見のとおり、人口減少による職員の不足や、公共施設の老朽化などの深刻化が見込まれる中、持続的かつ効率的に行政を経営していくためには町単体だけではなく広域的に事業を展開できるか検討する必要があります。 このため、基本構想では、第7章まちづくりの横断的な視点の「つながり」として位置付け、行政域を超えて施策連携と資源の循環を推進し、誰もが暮らしやすいまちづくりに向け取り組んでまいります。	○
3	空港周辺の市町村のうち、アイデアの売り込みのないのは栄町だとNAAの方から聞きました。是非、第6次による方針で良いアイデアで提案してください。期待しています。	基本構想全般	町では、国、千葉県、空港周辺9市町、NAAで構成される四者協議会において、地域の循環と空港の発展が好循環する地域づくりを目指した「成田空港周辺の地域づくりに関する『実施プラン』」に参加し、町独自の事業を含め、成田空港と共存、共栄するまちづくりに現在も取り組んでいます。 また、令和7年4月には、成田空港の機能強化（第2の開港プロジェクト）を強力に推進していくことを目的としたNRTエリアデザインセンターが設立されたことから、周辺9市町とのまちづくりに関するヒアリングを通じ、国や県の支援制度、民間提案とのマッチングなどについて意見交換を行っています。 成田空港の機能強化は、日本全体が人口減少に向かう中、地域として人口が増えるという特殊要因であり、町の将来に向けて議論の中心となるものですので、基本構想にて必要性を示し、基本計画でその取組み内容を明確にしております。	◇
4	「成田空港の機能強化」による町の活性化を期待していますが、どのようなことを考えて受け入れを期待していますか。	基本構想第1編序論第3章時代の潮流及び基本構想全般	基本構想第1編序論第3章時代の潮流2、町をとりまく状況の変化（町の活性化が期待できる要因）として成田空港の機能強化について記載しているものですが、成田国際空港株式会社から50万回運用時において必要となる空港周辺のインフラ機能や、関係する各自治体の在り方を示した、成田空港「エアポートシティ」構想が令和6年7月に公表されました。その中では、国や県、栄町を含む空港周辺の9市町が、新たな物流関連施設や働く人達の住宅環境整備、新しい交通手段の確保などについて地域全体が協力し合い、空港と地域が一体的に発展していく「エアポートシティ」を目指すこととしています。 このため、町では、9市町での連動した活動と合わせ、機能強化によって地域で必要となる様々な需要に対応するため、雇用増加に伴う住宅環境の整備、インバウンド需要の高まりに答える観光施策の充実、更には航空物流機能の町内誘致などに重点的に取り組むことを基本構想で示し、次年度に策定する前期基本計画において、横断的に取り組む事業として具体的に位置付けてまいります。	◇
5	「観光活性化エリアの中に房総のむら 周辺の利用展開が触られています が、令和8年度から改修される（取りかかる）とのこと、一切記されていないのは何故ですか。	第2編基本構想 第6章 土地利用構想	基本構想における第6章土地利用構想は、今後20年後を見据え土地をどのように利用していくかを示す基本的な考え方や指針のため、具体的な改修時期等は記載しておりません。 なお、房総のむら 周辺の利用展開については、町の観光施策にとって重要であるため今後策定する前期基本計画や実施計画において文化財の利活用とあわせ検討してまいります。	◇
6	成田空港の機能強化により約3万人の人員増加が見込まれているようです。独身者から家族を持つ人までですら平均3.5人とすれば約10万人の人達が空港周辺に居住することになると予測されます。町もその5%を呼び込むとするなら約5千人10%なら約1万人の増加が期待できます。 そのためには、それを受け入れる「器」（住居）の用意が必要です。 そこで「提案」です。いきなり新築住宅を購入して就業することは期待できません。それには「器」をつくるためのアイデアとして「町有の遊休土地」を活用して関連会社等へ働きかけて町内居住者の増加を計ってはどうか。	無し	基本構想において具体的な記載はありませんが、今後策定する前期基本計画や実施計画において今後増加が見込まれる成田空港及びその関連企業への就業者の居住地の整備は重要であると認識しております。 現在、安食駅南側の前新田地区においては町道整備を実施しており、基本構想第6章の土地利用構想でお示ししている「住居誘導エリア」を中心とした民間事業者による住宅誘導を目指しております。 ご提案の町有地等の活用については町の財産であることから、公共的な活用を軸としつつも、人口減少を緩やかにしていく為、住居系の利用を排除せず幅広く検討していきたいと考えておりますので、次年度に策定する前期基本計画や実施計画において、企業等の民間活力の活用とあわせて検討してまいります。	◇

栄町第6次総合計画基本構想（案）に対する御意見と町の対応

No.	御意見等	基本構想概要箇所	町の方針	区分
7	今迄通りの方針で全く抜本的改善が無い様ですね	基本構想全般	<p>第5次総合計画では、人口減少を緩やかにすべく、若い世代の転入者を取り込むため定住移住施策や子育て支援施策等を推進し、令和3年度には24年振りに転入者が転出者を上回る社会動態がプラスに転じる等、国立社会保障・人口問題研究所（社人研）が平成25年に行った推計よりも減少スピードが緩やかになるなど一定の効果を上げてまいりました。</p> <p>しかし、全国的にも人口減少や高齢化は進行し、当町においても少子高齢化や人口減少は進んでいるところです。令和7年3月に策定した栄町人口ビジョンでは社人研が2020年から20年後（2045年）の将来人口を推計したところ12,399人と20年間で7,728人（38.7%）減少する見込みとされています。</p> <p>この状況は地域経済の縮小や、各分野における担い手不足、高齢化に伴う社会保障費の増加など様々な影響が懸念されているところです。</p> <p>しかし、当町周辺地域では、千葉ニュータウンの企業進出や成田空港「第2の開港プロジェクト」が進んでおり、日本全体が人口減少に向かう中、雇用者の増加や地域経済への波及効果が期待され、当町においてはその影響を最大限に活かす必要がります。</p> <p>このため、栄町人口ビジョンでは、定住移住施策を強く推進し人口の減少のスピードを緩やかにしていくことで20年後（2045年）の将来人口16,000人と設定したところです。</p> <p>このような背景から栄町第6次総合計画では20年後の目標人口16,000人とし、その達成に向け「町民がいつまでも住み続けたい」「若い世代や町外の人からは住みたい」と思われる持続可能なまちをつくることを基本として策定するものです。</p> <p>また、町民意識調査結果において、将来の町のイメージについて伺ったところ、安全・安心なまちとして50.4%の方が回答され、近年の異常気象や地震、特殊詐欺やサーバー犯罪などを要因とし安全・安心に対する意識が高いことがわかりました。</p> <p>この結果を踏まえ、将来像を「笑顔あふれるあたたかいまち 水と緑のふるさと さかえ」とし、基本理念を「みんなが希望をもって安心してくらせるまちづくり」とし、次年度策定する前期基本計画において具体的な施策を策定してまいります。</p>	□
8	【スーパー堤防】 豪雨、地震災害などの自然災害にあたって、東日本大震災の時布鎌地区の堤防の陥落がありました、二度と起こらないような、矢口地区スーパー堤防の工業地区と若草大橋と印西ニュータウンと成田空港との関連により安心安全地区および、働く場所の提供地区により人口の増加も見込まれるのではないのでしょうか、特に布鎌地区においては、高齢化により土地、建物の空きが多くなります、まして10年20年の間には半分くらいになるのではないかと思います。スーパー堤防にするのに最適だと思います。	第2編基本構想 第6章 土地利用構想	利根川のような大規模な河川については国の直轄事業となり、現在スーパー堤防の整備が予定されているとは聞いておりません。引き続き、利根川の治水対策の状況等について国・県における動向を注視してまいります。	□
9	【独自の教育学部（小学校）】 雇用が生まれれば移住施策になるのでは、こどもまんなか社会、デジタル国家構想にあたり栄町の独自の教育学部を小学校から発進できたらいいな。	第2編基本構想 基本目標5	国が示す学習指導要領の指導内容に基づき、各小中学校で教育課程を編成しています。町では、第5次総合基本計画後期基本計画の中で地元企業や地域人材の活用を通じたキャリア教育を推進してきました。第6次総合計画においても、教科横断的な視点に立ち様々な学習活動において、町で育ち、町で学び、町に誇りと愛着を持ち、町を拠り所として活躍できる子どもたちを育成していきます。また、地元企業や地域人材（ゲストティーチャー）と連携し、町の良さや魅力を知るためのキャリア教育を継続していきます。	□
10	【再任用】 行政運営にあたり再任用は必要性が疑問です。 町を若返らせるためには、行政の考え方を若返らせる事が大事だと思う、世の中の進行速度の速さに定年した人がいつまでも行政の中で携わるのではなく世代交代すれば町も活性化するとおもいます。	無し	<p>再任用制度は、国・地方公務員とも定年年齢が65歳まで引き上げられたことに伴う、多様な働き方の選択肢の一つとなっています。また、経験が豊富な再任用職員の利用については、安定的な行政サービスの提供のほか、若手職員へその知識や技能を継承し、町職員全体の職務遂行能力の低下を防ぐためにも必要です。</p> <p>なお、将来を担う若手職員の柔軟な発想や機動力を生かした行政運営は大変重要であり、「栄町人材育成・確保基本方針」において、そのための人材育成と活躍できる職場づくりを推進することとしています。</p>	□
11	これが庁舎内のベテランから新人まで集合して「町の将来のため」真剣に討論し、練り上げられたものでしょうか？ なぜなら、これまでたびたび問題になった町内人口ひとつとっても、増加するどころか維持もできず、2万5千人余りから2万人を割り込む現状です。対策が空回りしたのではないかと。それが何故か？原因究明を検討し、発表もされず今回はそのまま減少し1万4千人弱と記されています。これを見て本当のことを発表していないように思えます。 庁舎内がどのように機能しているかは部外者で判りませんが、「密室の中」「伏魔殿」になっていませんか。	基本構想全般	<p>第5次総合計画では、人口減少を緩やかにすべく、若い世代の転入者を取り込むため定住移住施策や子育て支援施策等を推進し、令和3年度には24年振りに転入者が転出者を上回る社会動態がプラスに転じる等、国立社会保障・人口問題研究所（社人研）が平成25年に行った推計よりも減少スピードが緩やかになるなど一定の効果を上げてまいりました。</p> <p>しかし、全国的にも人口減少や高齢化は進行し、当町においても少子高齢化や人口減少は進んでいるところです。令和7年3月に策定した栄町人口ビジョンでは社人研が2020年から20年後（2045年）の将来人口を推計したところ12,399人と20年間で7,728人（38.7%）減少する見込みとされています。</p> <p>この状況は地域経済の縮小や、各分野における担い手不足、高齢化に伴う社会保障費の増加など様々な影響が懸念されているところです。</p> <p>しかし、当町周辺地域では、千葉ニュータウンの企業進出や成田空港「第2の開港プロジェクト」が進んでおり、日本全体が人口減少に向かう中、雇用者の増加や地域経済への波及効果が期待され、当町においてはその影響を最大限に活かす必要がります。</p> <p>このため、栄町人口ビジョンでは、定住移住施策を強く推進し人口の減少のスピードを緩やかにしていくことで20年後（2045年）の将来人口16,000人と設定したところです。</p> <p>このような背景から栄町第6次総合計画では20年後の目標人口16,000人とし、その達成に向け「町民がいつまでも住み続けたい」「若い世代や町外の人からは住みたい」と思われる持続可能なまちをつくることを基本として職員一丸となって取り組むものです。</p> <p>また、庁内の推進体制については、5月に公表した栄町第6次総合計画策定方針に推進体制が記載されております。</p>	□
12	子供たちのことが多く触れられており「子供まんなか宣言」などは共感できることです。若い人達・子育て中の方には喜ばしい事と思われます。若い職員のアイディアでしょうか。	第2編基本構想 第8章 基本目標2	本町では、少子高齢化、人口減少が進んでおり、将来にわたって持続可能なまちを実現するための方策を担当課及び関係課室において検討していく中で、「こどもまんなか社会」の実現を通じ、出生率の回復や人口減少の緩和に結びつくのではと、考えたものです。	□

栄町第6次総合計画基本構想（案）に対する御意見と町の対応

No.	御意見等	基本構想概要箇所	町の方針	区分
13	<p>上福田の「ヒューリック」による開発を見てどのように感じていますか。あのように大々的な土地はないのが栄町です。「遊休土地」なら有る筈です。</p> <p>それを「大和ハウス」「東建」「ヒューリック」や「信託銀行」の「土地信託」を利用することを検討してみてください。</p> <p>町の財政上の問題に影響を与えない方法が見つかるかもしれません。</p>	<p>第2編基本構想 第8章 基本目標3</p>	<p>基本構想において具体的な記載はありませんが、上福田地区については竜角寺台地区と隣接しており、従業員の居住地として栄町が選ばれる可能性は十分あることから、町にとっても大きなチャンスであると考えております。</p> <p>住宅開発誘導においては、推進主体となる民間企業の力が必要不可欠となりますので、ご提案の企業も含め、事業実現に向けた協力体制が構築できるよう検討してまいります。</p> <p>なお、頂いたご意見は「第8章 基本目標3 自然と調和した快適でくらしやすいまちをつくる」を進めていくにあたりご参考とさせていただきます。</p>	□